

九州大学総合研究 博物館ニュース

April 2010 No.14

博物館は、設立 10 周年を迎えました

2000年4月1日に学内共同教育研究施設として設置された九州大学総合研究博物館は、今年で満10周年となりました。当館の誕生までには、学内外の多くの皆様のご尽力とご支援があります。

1980年代、総合研究資料館設置準備委員会は「九州大学所蔵標本・資料」を発売して研究資料館の必要性を訴えました。1996年、学術審議会学術資料部会が「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」という報告を出し、「大学等の学術標本を整理、保存、公開・展示し、情報提供するとともに、これを対象に組織的に独自の研究教育を行い、また、「社会に開かれた大学」の窓口として、多様な学習ニーズに対応できるユニバーシティ・ミュージアムの設置が必要である」と提言しました。これを受けて九州大学は、直ちに杉岡洋一総長の下にユニバーシティ・ミュージアム設置準備委員会を設け、博物館



子ども向けの展示も得意になってきました。

構想の検討を始めました。3回の先行展示を開催して実績を積むとともに、本省との多くの折衝を経て、大学博物館が設置されました。

博物館活動は、学外公共施設における公開展示、福岡空港第1ターミナルでのサテライト展示、理系学生のための学芸員養成、全学標本資料調査からスタートしました。2002年には、博物館相当施設の認定を受け、博物館実習を開講できるようになりました。その後、第一および第二分館の設置、常設展示室のオープンなど、いくつかの大きな動きを経て今日に至っています。



設立当時の研究棟の前で。手前右が杉岡元総長、左は潮川淳一初代館長（現農学部名誉教授）。

昨年12月まで西日本新聞に連載された聞き書きの中で、九大博について2回にわたり言及されており、大学博物館設立への熱い思いに胸打たれます。心からご冥福をお祈りし、伊都キャンパスに明るく楽しい博物館が完成するよう努力していくことを、ここにお誓いたします。

最後に、九州大学総合研究博物館の生みの親である杉岡洋一総長が2009年11月27日、お亡くなりになりました。

九州大学総合研究博物館館長 松隈 明彦

